

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 岐阜県郡上八幡方言におけるサ行イ音便

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石原, 郁子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001472">https://doi.org/10.57529/00001472</a>

# 岐阜県郡上八幡方言におけるサ行イ音便

石原郁子

## 論文要旨

岐阜県郡上市八幡町は、日本のほぼ中央に位置し、東西方言の大境界地帯に入っている。そして東条操（1954）によると、東部方言の下位区分である東海東山方言に属する。岐阜県方言の特徴の一つに語幹末がsの子音語幹動詞のサ行イ音便がある。多くの先行研究では、この事象は衰退傾向にあることが指摘されており、この現象は動詞の拍数やアクセントの型によって現れ方に違いがあるとの指摘がある。

本稿では、サ行イ音便の高年齢層の実態を調査した。その結果、郡上八幡方言におけるサ行イ音便の実態は、70代以上の高年齢層では安定的に保たれていたが、60代以下では個人差があることが分かった。そして拍数とアクセントの型が残存に関与することが分かった。特に、3拍以上の語では当該方言ではアクセントに関係なく盛んにイ音便が現れている。また、俚言形にイ音便が多く観察された。そして、アクセントの中和から見ると、すなわちイ音便になる平板型の動詞は全て起伏型に変化する。

キーワード

語幹末がsの子音語幹動詞、サ行イ音便、高年齢層の実態、郡上八幡方言、アクセントの中和

## 1. はじめに

岐阜県郡上郡八幡町は、2004年3月の2町5ヶ村の合併（八幡町・白鳥町・大和村・高鷲村・美並村・明宝村・和良村）により現在は郡上市となっている。

そして、郡上市は日本のほぼ中央に位置し、東西方言の大境界地帯に入っている地域であるため、東部方言と西部方言、両方の性質をもっており特有なものがある。

岐阜県方言は、東条操（1954）『日本方言学』によると、東部方言の下位区分である東海東山方言に属する。そして郡上市（旧郡上郡）は、奥村三雄編（1976）『岐阜県方言の研究』による県内の方言区画では飛騨一市三郡と共に飛騨方言に分類されている。

その岐阜県の方言特徴の中の一つに「サ行イ音便」がある。サ行イ音便は、現在は西日本を中心に方言として残っているが、多くの先行研究では、この事象は衰退傾向にあることが指摘されている。また、イ音便化の現象は動詞の拍数やアクセントの型によって現れ方に違いがあるとの指摘がある。郡上市八幡町ではサ行イ音便が盛んに用いられていることから、その実態を明らかにする。

そして、岐阜県郡上八幡方言のサ行イ音便についての研究は少なく、郡上八幡方言の研究を進めることは、岐阜県方言研究のみならず、言語学や方言学等の研究全体に役立つと考える。

## 2. サ行イ音便についての先行研究のまとめ

### 2.1 定義

『国語学大辞典』1980<東京堂出版>「音便」pp123-125によれば、サ行イ音便とは、次のようである。

- (1)発音の便宜による音変化である音便の一つであるイ音便に属し、サ行五段活用語末の子音「s (ʃ)」が脱落して「イ」の音になる現象である。
- (2)音便を内的言語変化の面から見ると、単音の脱落現象、例えば子音 k・g・s (ʃ) として説明できる場合が多い。イ音便の出イテなどは、子音 s (ʃ) の脱落と見なされる
- (3)方言的特徴では、動詞の音便に関しては、ハ行四段動詞は、関ヶ原付近を境界に東日本の「買ッテ」形と西日本の「買ウテ」形が対立するが、圏論的な分布を示す。サ行四段動詞は、共通語をはじめ諸方言で「話シテ」形をとるが、中部地方以西では「話イテ」形もたびたび見られる。その中でも、京都方言などはかつてイ音便を起こしたらしい。

### 2.2 先行研究によってどこまで明らかになっているのか

- (1)『方言文法全国地図 第2集』(1991)

東西方言の境界地帯と重なるように、92「出した(過去形)」の地図では、岐阜県を含む富山県・石川県・福井県・三重県・愛知県以西に「イ音便」[daita] がみられる。岐阜県は一部に [dɛeta] [dæeta] などがみられるが、ほぼ全域に「イ音便」[daita] となっている。

- (2)『日本方言大辞典 音韻総覧』(1989)

23「サ行四段動詞のイ音便」の「出す」「指す」などの地図では、岐阜県は滋賀県と三重県側の一部に僅かにイ音便の分布がみられるだけである。

(3)奥村三雄 (1978)「サ行イ音便の消長」『日本の言語学 第6巻方言』(初出:『国語国文』37巻1号 京都大学国文学会昭和43年(1968))

「サ行イ音便」の研究をするにあたり、必ずと言って良いほどこの論文が参考文献になり検証の対照となっている。ここでは、サ行イ音便の現象に関していくつかの推論を立てたうえで、特にその中の4つの法則性(傾向性)を中心に次の様に記述されている。

①近畿はじめ各地に存するサ行四段式使役辞のイ音便は、動詞の場合に比べかなり少ない。

②2拍語は、「押す」「貸す」「足す」等ははっきりした非音便語がある。4拍語の「つぎ足す」になると音便形をとる。多音節語が音便化しやすいという傾向を示す。

③岐阜県方言の場合、音便化しやすい語の「指ス」「出ス」「干ス」等はⅡ類に所属している。Ⅰ類語の「押ス」「消ス」「越ス」「足ス」等の音便形は、殆どみられない。

④語幹末長音の語は非音便語である。

「サ行イ音便」の境界線は、大体佐渡・新潟県西端・岐阜県・長野県南部・静岡県あたりを結ぶ線であり、東西方言の境界地帯とほぼ一致する。

(4)中條 修 (1982):『静岡県のことば』『静岡方言の研究』

「五段動詞サ行イ音便」について、県内全域でみられ(話イタ・起イタ)、東の境界線は神奈川県界と一致し、西は愛知県へと続く。2拍動詞平板型の語「押す・越す・足す等」は東部・中部では起こさないが、西部では盛んである。

(5)鎌田良二 (1968):「サ行五段活用動詞のイ音便—西日本方言について—」

調査語「(傘) さす」「出す」「浮かす」「写す」「隠す」等の15語について、福井県、石川県を含む、近畿、中国、四国の19県を対象に通信調査を行ないまとめたものである。富山県・石川県はイ音便になるものが多く、高知県はほとんどがイ音便となる。岐阜県では調査されていないため、サ行イ音便の使用があると予想されるが岐阜県の実態がわからないとある。

(6)坂喜美佳 (2010):北陸方言の富山方言

富山県の「サ行イ音便の実態」として、先行研究述べられている音便化しない条件の「①語幹末が長音の語」は音便化する。「②2モーラ動詞で、アクセント類別上第一類の語」は音便化しにくい。「③いわゆる使役性他動詞」はある程度音便化しにくい「④語幹末母音がeの語」は音便化しにくいとし、イ音便化の条件が全て一致はしないが、かなりこの条件に沿ったものであるとしている。富山県内でのサ行イ音便の地域差、年代差、イ音便化しやすい語・しにくい語の傾向が述べられている。地域差はみられる。

(7)坂喜美佳 (2016):高知県方言

高知県での、サ行イ音便の実態とその成立について述べられている。先行文献でイ音便を起こさないまたは起こしにくい条件、①2モーラの動詞アクセント第一類の語、②使役性他動詞、③語幹末が長音である語、④語幹末母音がeの語があるが、高知県では、①③④はわずかに残っていることが確認できたが、現在の高知県では、サ行五段動詞が上記規則に関係なく音便化しており、この規則は高知県では崩壊していると記されている。

### 3. 岐阜県郡上八幡方言の概要

#### 3.1. 岐阜県郡上市の地理的環境

岐阜県は、日本のほぼ中央に位置し、周囲を愛知県・三重県・滋賀県・福井県・石川県・富山県・長野県に囲まれている。そして郡上市は、岐阜県の中央部に位置し東部は下呂市、北部は高山市、西部は福井県大野市に、南部は美濃市、関市に接する人口約4万人の市である。そして東西方言区画の大境界地帯に入っている。

(図1) 岐阜県郡上市の位置



#### 3.2 方言学的位置

東条操は『日本方言学』(1954)では、岐阜県を北海道方言、東北方言、関東方言、八丈島方言と同じ東部方言に分類した。そして東部方言の下位区分である東海東山方言(新潟の一部と長野、山梨、静岡、岐阜、愛知)に位置付け、かなり西部方言の要素の混入があって異色のものであるとし、その中でも岐阜、愛知には西部要素の混入が多いと記している。

都竹通年雄(1994)は、岐阜県方言を愛知方言と一つにまとめ、岐阜県愛知県方言として、本州西部方言とした。また、金田一春彦(1964)は、岐阜県は中輪方言としている。

#### 3.3 岐阜県での研究史

岐阜県のサ行イ音便の研究は少ないが、岐阜県のサ行イ音便について述べられている主なものを示す。

##### (1) 奥村三雄(編)(1976)『岐阜県方言の研究』

岐阜県を「西美濃方言」「東美濃方言」「飛騨方言」に区分し、音韻・アクセント、文法等に分け説明されている。そのなかで「サ行イ音便」については、「文法」の項目で三方

言とも「サ行イ音便」についての記述があり、いずれも「サ行イ音便」がかなり認められるとされている。岐阜県郡上市は、飛騨一市三郡（高山市・大野郡・吉城郡・益田郡）の他に、美濃北部（郡上郡、加茂・武儀の北部）地方を含む「飛騨方言」に区分されている。

(2)奥村三雄（1978）「サ行イ音便の消長」

ここでは、西日本の方言に多い現象としての内容であるが、サ行イ音便の著しい地点として岐阜県内40地点での調査結果が例として挙げられている。

### 3.4 調査について

#### (1)調査方法

面接調査を行った。2016年12月と2017年6月の調査は、調査語141語の共通語形と共に音便形と非音便形の例文を作成し、話者に例文が書かれている調査表を提示、使用する方を言ってもらい一つ一つ確認した。

例文：・刺す → 「魚を串に サシタ・サイタ」

・干す → 「布団を ホシタ・ホイタ」

・消す（キヤス）→ 「部屋の電気を キヤシタ・キヤイタ」

・落す → 「財布を オトシタ・オトイタ」

・仕出かす→ 「あの人はまた シデカシタ・シデカイタ」

・笑わかす→ 「あの人はみんなを ワラワカシタ・ワラワカイタ」

8月のアクセント調査は、調査語141語ごとに、その調査語の「～テマツタ形」「～テ行く」「～テ来る」「命令形」「否定形」の活用形の例文を作成したものを、筆者が話者に一つずつ問いかけ答えてもらい、アクセントを中心に確認した。話者は、12月と6月の調査で、サ行イ音便になる語が多かった話者L53歳（女）を調査した。

例文：・刺す→ 「魚を串に、サシタ・サイタ」

「魚を串に、サシテマツタ・サイテマツタ・( )」

「魚を串に、サシテ・サイテ・( )」行く

「魚を串に、サシテ・サイテ・( )」来る

「魚を串に、サセ・サシテマエ・サイテマエ・サシナレ」

「魚を串に、ササナイ・ササン」

#### (2)調査日・調査地点・話者情報

調査日：2016年12月18日～19日、2017年6月2日～4日、8月26日

調査地点：岐阜県郡上市八幡町内

話者：15名<sup>1</sup>（郡上市生え抜きの22歳から90歳の男性4名、女性11名）

## (3)調査項目

調査項目選定の基準は、大西拓一郎編（2002）「活用 動詞語彙一覧表」『方言文法調査ガイドブック』の語彙リストを参考に、先行研究で挙げられている語と郡上八幡方言でよく用いられている語を『精選版日本国語大辞典』（2006）（小学館）の逆引きを使用し選んだ。語の選定は筆者の内省による。アクセントは、秋永一枝編（2014）『新明解アクセント辞典』（三省堂）と『日本語発音アクセント辞典新版』（1998）（NHK 出版）を参考にした。

(表1) 調査語の拍数とアクセントの型（単位：語）

	平板	起伏	計
2拍	8	8	16
3拍	25	44	69
4拍	9	17	26
5拍	5	17	22
6拍	0	8	8
合計	47	94	141

(表2) 調査語リスト

2拍 (16語)	平板	押す、貸す、消す、越す、濾す(コス)、足す、増す、燃す、(8)
	起伏	差(指)す、刺す、挿す、出す、干す、蒸す、伸す(ノス)、臥す(フス)(8)
3拍 (69語)	平板	荒らす、枯らす、聞かす、暮らす、殺す、探す、透かす、散らす、潰す、消す(キス)、吊るす、退かす、飛ばす、泣かす、無(亡)くす、鳴らす、濡らす、外す、減らす、廻す、燃やす、汚す、沸かす、揺らす、渡す(25)
	起伏	余す、あやす、合わす、生(活)かす、移す、起こす、落とす、下(降)ろす、返す、隠す、崩す、焦がす、こぼす、凝らす、壊す、冷ます、過ごす、澄ます、ずらす、倒す、正す、騙す、垂らす、照らす、通す、溶かす、直す、流す、均す、脱がす、残す、剥す、化かす、離す、話す、生やす、冷やす、更かす、蒸かす、増やす、戻す、許す、寄越す、返す(カス)(44)
4拍 (26語)	平板	転がす、転ばす、後らす、散らかす、濡らかす、湿らす、やらかす、揺らかす、笑わす(9)
	起伏	動かす、言いだす、乾かす、腐らす、こじらす、差し出す、仕出かす、すべらす、耕す、だまかす、費やす、走らす、冷やかす、出くわす、ふやかす、持て成す、寝過ごす(17)
5拍 (22語)	平板	後らかす、転ばかす、湿らかす、膨らます、笑わかす(5)
	起伏	余らかす、言いふらす、言い聞かす、甘やかす、驚かす、思い出す、聞き漏らす、腐らかす、焦がらかす、志す、すり減らす、そそのかす、たぶらかす、とがらかす、はぐらかす、踏みつぶす、煩わす(17)
6拍 (8語)	起伏	当たり散らす、膨らまかす、思い起こす、思い直す、だまくらかす、怒鳴り散らす、すりへらかす、見せびらかす(8)





そして、イ音便しなかった語は、押す・貸す・消す（ケス）・越す、濾す・足す・伸す・臥す・増す・蒸す・燃す・合わす・蒸かす・走らす の14語であった。その14語の中で、2拍の平板型アクセントの語が8語、2拍起伏型アクセントの語が3語の11語と多く、3拍起伏型アクセントの2語と4拍起伏型アクセントの1語であり、2拍語はイ音便しにくく、特に平板型が多いことが分かった。

一方 M (51・女性) は、イ音便になる語は、返す（カヤス）・消す（キヤス）・退かす・飛ばす・直す・無くす・汚す・後らす・腐らす・湿らす・散らかす・濡らかす・冷やかす・後らかす・聞き漏らす・焦がらかす・湿らかす・はぐらかす・踏みつぶす・当たり散らす・膨らまかす・見せびらかす の22語であった。

表の中で「使わない」という回答の語が、消す（ケス）・燃す（モス）・余す・返す（カエス）・正す・散らす・濡らす・化かす・更かす・費やす・志す・とがらかす・膨らます・煩わすの14語あった。その中で特に「使わない」の回答が多かったのが、燃す（モス）14人、返す（カエス）11人、消す（ケス）9人であるが、これらの語はいずれも、燃す（モス）はモヤスに、返す（カエス）はカヤスに、消す（ケス）はキヤスのように、俚言形の語が使用されている。

これらの他にも、「使わない」の回答が少ない語の、散らす・濡らす・膨らますも、それぞれ散らすはチラカス、濡らすはヌラカス、膨らますはフクラマカスのように「～カス」が付いた俚言形が使われている。そして、俚言形の方がイ音便になることが多いが、散らすと濡らすに「使わない」と回答した話者 E の場合は、俚言形のチラカス、ヌラカスはイ音便にならない。このように、俚言形がよく使われているが、必ずしもイ音便になるとは限らないことが分かった。特に60歳代以下に多い。

## 4.2 年代別に見たサ行イ音便の現れ方

上記表3の調査結果を数字で表したものを表4で示す。

(表4) 話者別イ音便調査集計表

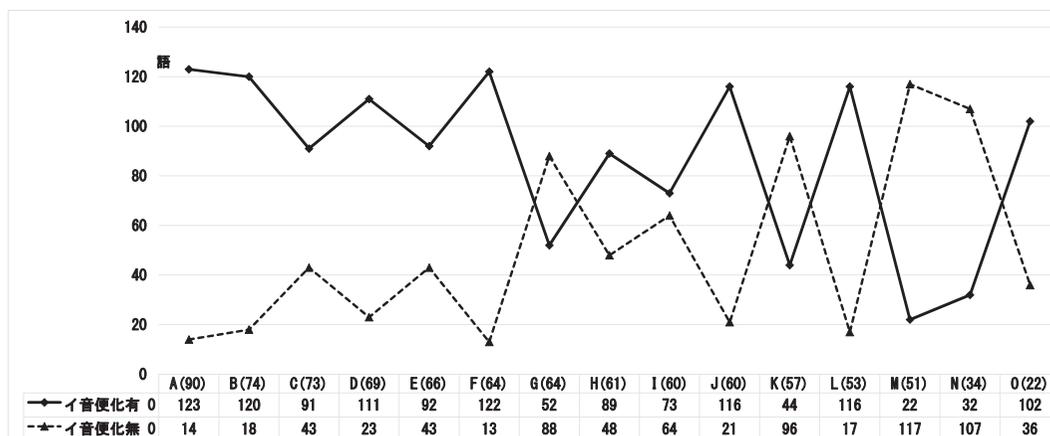
	A(90)	B(74)	C(73)	D(69)	E(66)	F(64)	G(64)	H(61)	I(60)	J(60)	K(57)	L(53)	M(51)	N(34)	O(22)
イ音便化有	123	120	91	111	92	122	52	89	73	116	44	116	22	32	102
イ音便化無	14	18	43	23	43	13	88	48	64	21	96	17	117	107	36

横列の A から O は話者を示す。かっこ ( ) 内の数字は、調査時の年齢。縦の行はイ音便で発音した語と、イ音便しなかった語の合計。

この表から、イ音便で発音した数が100以上あったのは、話者 A、B、D、F、J、L、O

の7名で、半数以上をイ音便で発音したのが、C、E、H、Iの4名となり、15名中11名が半数以上をイ音便で発音している。表4を分かりやすくグラフ1に示す。

(グラフ1) 話者ごとのサ行イ音便数



(縦軸：語数、横軸：話者 A から O、かっこ ( ) 内は調査時の年齢)

上記グラフ1を見ると、話者 A (90) から話者 F (64) までは、多少の差はあるもののサ行イ音便の方が優勢でありイ音便が保たれている。一方、それより若い年代では、グラフ1で分かるように、線の交わりが目立ち50歳代、60歳代ともに個人差があることが分かる。また、20歳代と30歳代は話者が一人ずつであるが、N (34) より20歳代の O (22) の方がイ音便になる数が多く、ここでも個人差がうかがえる。

個別に観察すると、F (64) と G (64) は同じ64歳であるが、イ音便した語が F は122語であったが、G は52語とイ音便の語の方が少ない回答であった。F の他にイ音便の方が少なかった K (57) と M (51) は、イ音便した語が K は44語、M は22語と少ないが、必ずしも年代だけではないと思われる。それは、前述した G (64) と K (57)、M (51) は、同じ職場であることから、環境による影響が大きいと考えられる。

60代前半から徐々にイ音便になる数がジグザグを示すことから、若年層は未調査ではあるが、イ音便の使用が徐々に衰退するであろうと予測できる。

#### 4.3 動詞終止形の拍数とサ行イ音便の関係

ここでは、動詞終止形の拍数が、サ行イ音便になる現象に関係があるかを見る。

下表5は、縦の行に動詞終止形の拍数を示し、横の列は、イ音便で発音した話者の数を表わしたものである。

(表5)

[単位：語]

	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	12人	13人	14人	15人
2拍語	11	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	2	0	0
3拍語	1	0	0	1	1	2	2	3	2	5	5	17	16	12	2	0
4拍語	0	0	1	1	1	0	3	3	2	0	4	3	6	1	1	0
5拍語	0	0	0	1	0	2	1	0	2	3	6	3	1	1	2	0
6拍語	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	1	2	1	0	0
計	12	0	1	3	2	4	6	8	7	9	17	24	26	17	5	0

詳しく見ると、「2拍語の列で0人が11語」というのは、15人の話者の中で誰（0人）も、サ行イ音便で発音しなかった語が11語あったことを示す。その2拍語の11語は、押す・貸す・消す（ケス）・越す・濾す・足す・増す・燃す・蒸す・伸す・臥すと3拍語の返す（カエス）の1語の12語のみであった。一方、サ行イ音便が多く観察されるのは、表5の網掛で示すとおり3拍語以上であるが、特に3拍語のイ音便になる語が多いことが分かる。

次の表6は、上記表5を展開し、具体的に語例とアクセントを示したものである。

上記の表6は、動詞の語例ごとにイ音便で発音した話者の合計数を0人から15人ごとに表したもので、アクセントは平板型と起伏型に分けて示した。

例えば、人数の項の14人の列は、話者15人中14人がイ音便で回答した語を示し、平板型は3拍の「飛ばす」、起伏型では3拍の「直す」、4拍の「ふやかす」5拍の「はぐらかす」

(表6) サ行イ音便で現れやすい動詞

人数	動 詞 語 例	
	平 板 型	起 伏 型
15人	なし	
14人	飛ばす	直す、 ふやかす、 はぐらかす 踏みつぶす
13人	汚す 沸かす	刺す 干す、 移す 起こす 落とす 下ろす 隠す 返す(カエス) 壊す 通す 剥す 寄越す 耕す 思い出す 思い直す
12人	枯らす 消す(ケス) 退かす 鳴らす 渡す、 やらかす、	出す、 焦がす こぼす 倒す 垂らす 照らす 流す 脱がす 残す 離す 話す 許す、 乾かす 腐らす 差し出す 仕出かす だまかす、 甘やかす、 だまくらかす、 見せびらかす
11人	荒らす 殺す 捜す 潰す 外す 廻す 燃やす、 転がす、 湿らかす	あやす 崩す 過ごす ずらす 騙す 溶かす 生やす 冷やす 増やす 戻す、 動かす 冷やかす、 聞き漏らす そそのかす、 思い起こす
10人	吊るす 泣かす 減らす 濡らす、 散らかす 濡らかす、 後らかす 笑わかす	冷ます、 言いだす 寝過ごす、 言いふらす 驚かす すり減らす たぶらかす、 当たり散らす 膨らまかす
9人	暮らす、 膨らます	挿す、 生活かす 凝らす 澄ます 均す、 余らかす 焦がらかす
8人	後らす 湿らす	差・指す、 余す 蒸かす、 腐らかす とがらかす
7人	透かす 散らす 揺らす、 揺らかす	すべらす 持て成す、 どなり散らす すりへらかす
6人	無くす	化かす、 こじらす 費やす 出くわす、 言い聞かす
5人	聞かす 転ばかす	更かす、 志す
4人	転ばす	正す
3人	笑わす	合わす、 煩わす
2人	なし	走らす
1人	なし	なし
0人	押す 貸す 消す(ケス) 越す 濾す 足す 増す 燃す	蒸す 伸す 臥す、 返す(カエス)

「踏みつぶす」の計5語となる。11人の列では、平板型が9語、起伏型が16語の計25語、10人の列では平板型の語が8語、起伏型の語が9語の17人である。

このように、この表から、サ行イ音便になる語には平板型も多いことが分かった。

表6の一番下の0人の列、つまりサ行イ音便が観察されなかった12語のうち、押す・貸す・消す・越す・濾す・足す・増す・燃すの8語が平板型で、蒸す・伸す・臥す・返すが起伏型であった。

そして、イ音便が観察されなかった「消す(ケス)」は、俚言形の「消す(キヤス)」になるとイ音便になる回答が12名と多く、日常では「キヤス」の方が良く使われていることが分かる。同じように2拍語の「燃す(モス)」も、俚言形の「燃やす(モヤス)」になると、イ音便になりやすく「モヤイタ」の回答が11名と多く、これも使用語彙である事がわかる。

「返す(カエス)」についても同じく、俚言形の「返す(カヤス)」になると、イ音便形の「カヤイタ」の回答が13名と多く、俚言形「カヤス」の方が日常的に使われていることが分かる。このように、平板型では「消す(キヤス)」「燃やす」「湿らかす」「濡らかす」「笑わかす」など、起伏型では、「返す(カヤス)」「だまくらかす」「膨らまかす」「余らかす」などの俚言形の語が多くサ行イ音便になっている。

今回の調査では男性4名(B・D・F・I)、女性11名と男性の方が少なかったが、特に男女差は見られないが、60歳代前半あたりから、同じ年代でも個人差が見られ、サ行イ音便の使用が衰退傾向にあるといえる。

先行研究で、サ行五段活用動詞のイ音便を起こさない傾向があるとされている、4つの規則性①語幹末が長音である語 ②二音節動詞アクセント第一類の語 ③いわゆる使役性他動詞 ④語幹末母音がeである語 とあるが、①については、調査語の「通す」のみであるが、13人がイ音便になる。②については、2拍語は特にイ音便になりやすく、③については、キカス(聞かす)・コロバス(転ばす)・コガス(焦がす)・ヌラス(濡らす)などイ音便になる語が多いことから、①③については、郡上八幡方言には当てはまらないことが分かった。④については、「消す」「減らす」等あるが、「減らす」はイ音便になるため、④についてもこの規則には当てはまらない。

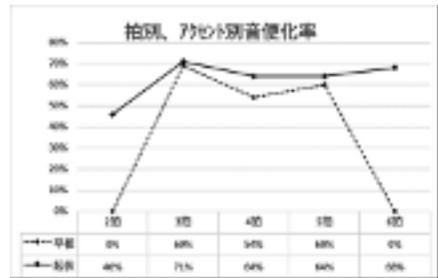
#### 4.4 拍、アクセントの型のサ行イ音便化率

次に示すグラフ2は、アクセントの平板型と起伏型でイ音便になりやすいかどうかを拍数ごとにまとめたものである。

音便化率の算出方法は、拍数・アクセントの型ごとの音便化した人数を、その総数で割ったものである。例えば、3拍平板型のイ音便化率は69%であるが、これは、平板型の語数

25語に対し、イ音便になった人数258を平板型25 (グラフ2)

語に15人を掛けた375で割ったものである。イ音便2拍語については、平板型より起伏型の語の方がイ音便になりやすいと言える。3拍、4拍、5拍になると多少の差はあるが、アクセントの平板型、起伏型に関わらず、音便化することが分かる。6拍語は起伏型のみのため0となっている。



## 5. 終止形が平板型の動詞とサ行イ音便によるアクセント型の変化

2017年8月に調査を行った。そして、その結果からイ音便が発生する時のアクセントは全て起伏型であることが分かった。更に、終止形が平板型であってもイ音便になる活用形は起伏型に変化することが分かった。

具体的に、主な平板型と起伏型の活用形を表7に示す。

例えば、3拍語の終止形「荒らす (アラス)」[○●●] の場合、連用形 (タ形) はアライタ [○●○○]、テ形の「～テ イク」はアライテク [○●○○○]、「～テ クル」はアライテ クル [○●○○] [●○]、「～テマッタ」は、アライテマッタ [○●○○○○○] となり、命令形は「アライテマエ」[○●○○○○]、否定形は「アラサン」[○●●●] となる。また、4拍語の終止形「転ばす (コロバス)」[○●●●] は、連用形 (タ形) はコロバイタ [○●●○○]、テ形の「～テ イク」はコロバイテク [○●●○○○]、「～テ クル」は、コロバイテ クル [○●●○○] [●○]、「～テマッタ」はコロバイテマッタ [○●●○○○○○] となり、命令形はコロバシナレ [○●●●●○]、否定形はコロバサン [○●●●●] となる。5拍語の終止形「後らかす (オクラカス)」[○●●●●] は、連用形 (タ形) はオクラカイト [○●●●○○]、テ形の「～テ イク」はオクラカイトク [○●●●○○○]、「～テ クル」は、オクラカイト クル [○●●●○○] [●○]、「～テマッタ」はオクラカイトマッタ [○●●●○○○○○] となり、命令形はオクラカシナレ [○●●●●●○]、否定形はオクラカサン [○●●●●●] となる。

いずれも2拍目から上昇し、イ (i) で下降する。5拍語「後らかす」の場合、過去形はオクラカイト [○●●●○○]、～テマッタ形はオクラカイトマッタ [○●●●○○○○○] となり、2拍目から上昇し、イ (i) で下降する。それに続く「～て行く」「～て来る」の場合も、2拍目から上昇し、イ (i) で下降する。4拍語の「散らかす」以降の否定形は、すべてアクセントは起伏型となる。

(表7)

拍数	共通語形	7拍目	課表NO	終止形	～タ	～テ イク	～テ クル	～テマッタ	～テマエ(命音)	～サン(否定)
3拍	荒らす	平板	20	アラス [○●●]	アライタ [○●○○]	アライテク [○●○○○]	アライテ クル [○●○○][●○]	アライテマッタ [○●○○○○○]	アライテマエ [○●○○○○]	アラサン [○●●●]
	消す	平板	31	キヤス [○●●]	キヤイタ [○●○○]	キヤイテク [○●○○○]	キヤイテ クル [○●○○][●○]	キヤイテマッタ [○●○○○○○]	キヤシナレ [○●●●○]	キヤサン [○●●●]
	還かす	平板	55	ドカス [○●●]	ドカイタ [○●○○]	ドカイテク [○●○○○]	ドカイテ クル [○●○○][●○]	ドカイテマッタ [○●○○○○○]	ドカシナレ [○●●●○]	ドカサン [○●●●]
	廻す	平板	77	マウス [○●●]	マウイタ [○●○○]	マウイテク [○●○○○]	マウイテ クル [○●○○][●○]	マウイテマッタ [○●○○○○○]	マウシナレ [○●●●○]	マウサン [○●●●]
	燃やす	平板	79	モヤス [○●●]	モヤイタ [○●○○]	モヤイテク [○●○○○]	モヤイテ クル [○●○○][●○]	モヤイテマッタ [○●○○○○○]	モヤシナレ [○●●●○]	モヤサン [○●●●]
	返す	起伏	27	カヤス [○●○]	カヤイタ [○●○○]	カヤイテク [○●○○○]	カヤイテ クル [○●○○][●○]	カヤイテマッタ [○●○○○○○]	カヤシナレ [○●●●○]	カヤサン [○●●●]
	残す	起伏	65	ノコス [○●○]	ノコイタ [○●○○]	ノコイテク [○●○○○]	ノコイテ クル [○●○○][●○]	ノコイテマッタ [○●○○○○○]	ノコシナレ [○●●●○]	ノコサン [○●●●]
	増やす	起伏	75	フヤス [○●○]	フヤイタ [○●○○]	フヤイテク [○●○○○]	フヤイテ クル [○●○○][●○]	フヤイテマッタ [○●○○○○○]	フヤシナレ [○●●●○]	フヤサン [○●●●]
	戻す	起伏	78	モドス [○●○]	モドイタ [○●○○]	モドイテク [○●○○○]	モドイテ クル [○●○○][●○]	モドイテマッタ [○●○○○○○]	モドシナレ [○●●●○]	モドサン [○●●●]
	許す	起伏	81	ユルス [○●○]	ユルイタ [○●○○]	ユルイテク [○●○○○]	ユルイテ クル [○●○○][●○]	ユルイテマッタ [○●○○○○○]	ユルシナレ [○●●●○]	ユルサン [○●●●]
4拍	転ばす	平板	93	コロパス [○●●●]	コロバイタ [○●●○○]	コロバイテク [○●●○○○]	コロバイテ クル [○●●○○][●○]	コロバイテマッタ [○●●○○○○○]	コロバシナレ [○●●●○]	コロバサン [○●●●]
	散らかす	平板	100	チラカス [○●●●]	チラカイタ [○●●○○]	チラカイテク [○●●○○○]	チラカイテ クル [○●●○○][●○]	チラカイテマッタ [○●●○○○○○]	チラカシナレ [○●●●○]	チラカサン [○●●●]
	濡らかす	平板	103	ヌラカス [○●●●]	ヌラカイタ [○●●○○]	ヌラカイテク [○●●○○○]	ヌラカイテ クル [○●●○○][●○]	ヌラカイテマッタ [○●●○○○○○]	ヌラカシナレ [○●●●○]	ヌラカサン [○●●●]
	やらかす	平板	109	ヤラカス [○●●●]	ヤラカイタ [○●●○○]	ヤラカイテク [○●●○○○]	ヤラカイテ クル [○●●○○][●○]	ヤラカイテマッタ [○●●○○○○○]	ヤラカシナレ [○●●●○]	ヤラカサン [○●●●]
	揺らかす	平板	110	ユラカス [○●●●]	ユラカイタ [○●●○○]	ユラカイテク [○●●○○○]	ユラカイテ クル [○●●○○][●○]	ユラカイテマッタ [○●●○○○○○]	ユラカシナレ [○●●●○]	ユラカサン [○●●●]
	すべらす	起伏	97	スベラス [○●●○]	スベラカイタ [○●●○○○]	スベラカイテク [○●●○○○○]	スベラカイテ クル [○●●○○○][●○]	スベラカイテマッタ [○●●○○○○○○]	スベラシナレ [○●●●○]	スベラカサン [○●●●○]
	だまかす	起伏	98	ダマカス [○●●○]	ダマカイタ [○●●○○]	ダマカイテク [○●●○○○]	ダマカイテ クル [○●●○○][●○]	ダマカイテマッタ [○●●○○○○○]	ダマカシナレ [○●●●○]	ダマカサン [○●●●○]
	餅す	起伏	99	タガヤス [○●●○]	タガヤイタ [○●●○○]	タガヤイテク [○●●○○○]	タガヤイテ クル [○●●○○][●○]	タガヤイテマッタ [○●●○○○○○]	タガヤシナレ [○●●●○]	タガヤサン [○●●●○]
	寝違ごす	起伏	104	ネスゴス [○●●○]	ネスゴイタ [○●●○○]	ネスゴイテク [○●●○○○]	ネスゴイテ クル [○●●○○][●○]	ネスゴイテマッタ [○●●○○○○○]	ネスゴシナレ [○●●●○]	ネスゴサン [○●●●○]
	ふやかす	起伏	107	フヤカス [○●●○]	フヤカイタ [○●●○○]	フヤカイテク [○●●○○○]	フヤカイテ クル [○●●○○][●○]	フヤカイテマッタ [○●●○○○○○]	フヤカシナレ [○●●●○]	フヤカサン [○●●●○]
5拍	後らかす	平板	116	オクラカス [○●●●●]	オクラカイタ [○●●●○○]	オクラカイテク [○●●●○○○]	オクラカイテ クル [○●●●○○][●○]	オクラカイテマッタ [○●●●○○○○○]	オクラカシナレ [○●●●○]	オクラカサン [○●●●○]
	転ばかす	平板	123	コロバカス [○●●●●]	コロバカイタ [○●●●○○]	コロバカイテク [○●●●○○○]	コロバカイテ クル [○●●●○○][●○]	コロバカイテマッタ [○●●●○○○○○]	コロバカシナレ [○●●●○]	コロバカサン [○●●●○]
	濡らかす	平板	124	シメラカス [○●●●●]	シメラカイタ [○●●●○○]	シメラカイテク [○●●●○○○]	シメラカイテ クル [○●●●○○][●○]	シメラカイテマッタ [○●●●○○○○○]	シメラカシナレ [○●●●○]	シメラカサン [○●●●○]
	膨らます	平板	130	フクラカス [○●●●●]	フクラマカイタ [○●●●○○○]	フクラマカイテク [○●●●○○○○]	フクラマカイテ クル [○●●●○○○][●○]	フクラマカイテマッタ [○●●●○○○○○○]	フクラマカシナレ [○●●●○]	フクラマカサン [○●●●○]
	言いふらす	起伏	115	イフラス [○●●●○]	イフライタ [○●●●○○]	イフライテク [○●●●○○○]	イフライテ クル [○●●●○○][●○]	イフライテマッタ [○●●●○○○○○]	イーフラシナレ [○●●●○]	イーフラサン [○●●●○]
	たぶらかす	起伏	127	タブラカス [○●●●○]	タブラカイタ [○●●●○○]	タブラカイテク [○●●●○○○]	タブラカイテ クル [○●●●○○][●○]	タブラカイテマッタ [○●●●○○○○○]	タブラカシナレ [○●●●○]	タブラカサン [○●●●○]
	はぐらかす	起伏	129	ハグラカス [○●●●○]	ハグラカイタ [○●●●○○]	ハグラカイテク [○●●●○○○]	ハグラカイテ クル [○●●●○○][●○]	ハグラカイテマッタ [○●●●○○○○○]	ハグラカシナレ [○●●●○]	ハグラカサン [○●●●○]
	踏みつぶす	起伏	131	フミツパス [○●●●○]	フミツパイタ [○●●●○○]	フミツパイテク [○●●●○○○]	フミツパイテ クル [○●●●○○][●○]	フミツパイテマッタ [○●●●○○○○○]	フミツパシナレ [○●●●○]	フミツパサン [○●●●○]

### 6. 考察

以上の結果から、郡上八幡方言の「サ行イ音便」について、「押す」「貸す」「消す」「越す」「濾す」「足す」「増す」「燃す」「蒸す」「伸す」「臥す」「返す」の語を除く129語にイ音便がみられ、現在も頻繁に使用されていることが分かった。男女による差は無いと考えられるが、家族構成や生活環境、職場環境による影響もあると思われ、年代差、個人差が見られる。

郡上八幡方言のサ行イ音便の特徴をまとめれば、次のとおりである。

#### (1) 俚言形の動詞がなりやすい

主な俚言形の動詞に、「消す(キヤス)」「返す(カヤス)」「燃やす」「濡らかす」「膨らまかす」「焦がらかす」など。

## (2)3 拍語以上の動詞がなりやすい

4.3の表5で示したとおり、3拍語以上の動詞がイ音便になりやすい。

(3)共通語終止形アクセントが平板型の動詞であっても、俚言形に関わらず、イ音便になる  
平板型の動詞は全て起伏型に変化する。

サ行イ音便になる語をアクセントから見ると、郡上八幡方言では「キヤス [○●●]」が「キヤイタ [○●○○]」、「モヤス [○●●]」が「モヤイタ [○●○○]」のように俚言形に変わると起伏型になりイ音便になる。今回の調査によって、俚言形に関わらずイ音便になる平板型の動詞は全て、起伏型へ変化しイ音便になることが分かった。

## &lt;参考文献&gt;

- 秋永一枝編 (2014) 『新明解アクセント辞典』 (三省堂)
- 岩井隆盛 (1959) 国立国語研究所『日本方言の記述的研究』石川県 pp.57- 明治書院
- NHK 放送文化研究所 (1998) 『NHK 日本語発音アクセント辞典』 NHK 出版
- 大西拓一郎編 (2002) 『方言文法調査ガイドブック』 科学研究費補助金研究成果報告書
- 奥村三雄編 (1968) 「サ行イ音便の消長」『国語国文37巻-1号』 京都大学文学部国文学会 (『日本の言語学 第6巻 方言』 pp.606-624)
- 奥村三雄編 (1976) 『岐阜県方言の研究』 pp.210,pp.269 大衆書房
- 加藤正信 (1977) 「方言区画論」『岩波講座 日本語11 方言』 岩波書店
- 加藤 毅 (1983) 「岐阜県の方言」『講座方言学6』 国書刊行会
- 鎌田良二 (1968) 「サ行五段活用動詞」のイ音便－西日本方言について－』『甲南女子大学研究紀要』 4 pp.36-57
- 金田 弘、宮腰 賢 (2005) 『新訂 国語史要説』 大日本図書
- 岐阜県立郡上高等学校方言研究会編 (1952) 『郡上方言 第一集 語彙編』 岐阜県立郡上高等学校方言研究会
- 金田一春彦 東條操監修 日本方言研究会編 (1964) 「私の方言区画」『日本の方言区画』 東京堂
- 国語学会編 (1980) 『国語学大辞典』 東京堂出版
- 国立国語研究所 (1991) 『方言文法全国地図』 第2集 国立印刷局
- 小西いずみ (2016) 『富山県方言の文法』 ひつじ書房
- 坂喜美佳 (2010) 「富山県におけるサ行イ音便の実態」『言語科学論集第14号』 pp.53-64  
東北大学文学部言語科学専攻
- 坂喜美佳 (2016) 「高知県のサ行イ音便について」『文化80巻1,2号』 pp.55-66 東北大学文学会

- 小学館国語辞典編集部 (2006) 『精選版 日本国語大辞典』 小学館
- 尚学図書編 (1989) 『日本方言大辞典』 音韻総覧「23. サ行四段動詞のイ音便 - 「出す」「指す」等 - 小学館
- 都竹通年雄 (1994) 「第1章日本語の方言区分けと新潟方言」『季刊国語』 3-1 群馬国語文化研究所
- 東条 操 (1954) 『日本方言学』 吉川弘文館
- 東条 操 (1961) 『全国方言辞典』 日本方言区画図・県郡区画図 東京堂
- 彦坂佳宣 (1980) 「近世尾張方言のサ行イ音便 - 音便化の条件と位相と - 」『岩手大学教育学部研究年報』 第四十巻第一号 (1989・10)
- 福島直恭 (1992) 「サ行活用動詞の音便」『国語国文論集』 第21号 学習院女子短期大学国語国文学会
- 中條 修、中田敏夫 (2002) 日本のことばシリーズ22 『静岡県のことば』 明治書院
- 野村正良 (1959) 国立国語研究所『日本方言の記述的研究』 愛知県 pp.73- 明治書院
- 山田敏弘 (2003) 「『郡上方言』の文法」岐阜大学教育学部研究報告人文科学第52巻第1号
- 岐阜県公式ホームページ 岐阜県の位置地図
- www 岐阜県の地図 - 都道府県市区町村
- 郡上市公式ホームページ

- i A : K.F 1926年生まれ 90歳 (女) 八幡
- B : M.A 1942年生まれ 74歳 (男) 八幡
- C : T.S 1943年生まれ 73歳 (女) 八幡
- D : I.Y 1947年生まれ 66歳 (男) 八幡
- E : I.T 1950年生まれ 66歳 (女) 八幡
- F : Y.S 1952年生まれ 64歳 (男) 八幡
- G : I.K 1952年生まれ 64歳 (女) 八幡
- H : K.J 1955年生まれ 61歳 (女) 八幡
- I : K.T 1956年生まれ 60歳 (男) 八幡
- J : Y.J 1956年生まれ 60歳 (女) 八幡
- K : U.Y 1959年生まれ 57歳 (女) 白鳥
- L : S.Y 1963年生まれ 53歳 (女) 八幡
- M : S.M 1965年生まれ 51歳 (女) 八幡
- N : Y.R 1984年生まれ 34歳 (女) 八幡
- O : W.S 1995年生まれ 22歳 (女) 白鳥